

平成 30 年第 4 回定例会一般質問通告事項

<p>9 月 6 日 午 後</p>	<p>杉原 孝一郎 議員（尾道未来クラブ） 質問方式：一問一答方式</p> <p>1 二度の大災害の教訓から得た市民の安全を守るための市長の具体的構想等について</p> <p>一昨年 6 月、本年 7 月の豪雨による災害は、それぞれ 2600～2700 カ所。残念ながら、尾道市は災害に弱いまちであることが明らかとなった。</p> <p>豪雨災害に断水が加わっただけで行政も市民もてんでこ舞い。これに最も恐れる南海トラフ大地震が加わったら、さらに道路の崩壊・寸断・液状化、火災、停電、断水、高潮、家屋倒壊など想像を絶する災害が懸念されます。</p> <p>この度の災害を教訓にして次に活かさねばなりません。私は、“災害に強いまちづくり”より“災害を避けるまちづくり”を目指すべきと考えます。尾道市もコンパクトシティ化が避けられません。限られた財源というより、縮小していく財源を最大限有効活用していく方策を真剣に考えれば、自ずと先は見えて来るはずで</p> <p>す。</p> <p>2 5 ヶ月の間に 2 度も大災害に見舞われた尾道市。災害への安全対策の充実は、喫緊の課題であり、さらに南海トラフ大地震も視野に入れた対策についても急がなければなりません。</p> <p>そうしたなか、</p> <p>(1) 市長は、『今回の雨量を基準に対策を再検討する』と中国新聞記者のインタビューに答えています。市民の安全・安心を守るため、災害から得た教訓の、何をどう検討されるのか、具体的にお示しください。</p> <p>次に、因島中庄の配水ポンプが 2 時間停止した件で、市長は「ポンプの能力向上や樋門の機能について国や県と協議する」と述べておられますが、この発言には違和感を覚えます。</p> <p>市長は政治家であって、行政職員ではありません。国や県と協議をするというのは職員レベルの発言であって、市長は責任を持って改善すると言うべきではありませんか。</p> <p>国や県がノーと言ったらやらないのですか。また水浸しにするのですか。そんなことはできないでしょう。政治家たる市長に必要なのは、先見性ある自主判断です。自らの意思が、他力本願であってはなりません。災害政策についても同様と思うのですが、</p>
--	--

(2) 国や県と協議するという、平谷市長の発言の意図をお聞かせください。